

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)GLP ALFALINK茨木3プロジェクト	階数	地上6F
建設地	大阪府茨木市南目垣・東野々宮区画	構造	RC造
用途地域	商業地域、防火地域	平均居住人員	616人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,080時間/年(想定値)
建物用途	事務所、工場	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2025年7月 予定	評価の実施日	2023年10月12日
敷地面積	46,804 m ²	作成者	山下修司
建築面積	21,568 m ²	確認日	2023年10月16日
延床面積	114,932 m ²	確認者	井塚通浩



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.9

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B: ★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算
①参照値 100%
②建築物の取組み 73%
③上記+②以外の 73%
④上記+ 73%

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質

Qのスコア = 3.2

Q1 室内環境

Q1のスコア = 2.8

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.7

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.2

LR 環境負荷低減性

LRのスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 4.3

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.5

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合 大阪府茨木市に建設される工場+事務所の計画である。免震装置を採用し、機械・配管支持は重要機器において耐震クラスAとするなど、建物の信頼性に配慮している。		その他 特になし。
Q1 室内環境 照度は、全館照明方式で、500 lx ≤ 照度1000 lx とし、照明は1作業単位でリモコン制御できるなど、作業環境に配慮している。	Q2 サービス性能 余裕のある天井高さやリフレッシュスペースにて執務環境向上に配慮、更新間隔の長い仕上材や配管材、設備等を採用し耐用性向上に配慮、階高や壁長さ比率に余裕を持たせフレキシビリティにも配慮している。	Q3 室外環境(敷地内) 景観届が出されており、外観ガ-ス検証を行う等、まちなみに配慮している。
LR1 エネルギー 高効率な設備システムを導入し、省エネルギーに配慮している。	LR2 資源・マテリアル 節水器具の採用や雨水の利用、リサイクル材の積極的な採用で資源の保護に配慮している。	LR3 敷地外環境 燃焼機器は使用せず、大気汚染防止に配慮している。また、車両出入を一方通行にすることで、周辺道路の渋滞緩和に寄与している。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

【建物概要】	建物名称	(仮称)GLP ALFALINK茨木3プロジェクト新築工事					
	建設地	大阪府茨木市南目垣・東野々宮区画整理事業10街区					
	用途/区分	工場 事務所					
【評価結果】	CASBEE 総合評価					A	
①	CO2削減					4	
②	みどり・ヒート アイランド対策					3	
③	建物の断熱性					5	
④	エネルギー削減					5	
⑤	自然エネルギー直接利用					—	
	再生可能エネルギー 利用施設の導入状況	太陽光発電	—	風力	—	地熱	—
		太陽熱利用	—	水力	—	バイオマス	—

エネルギー消費量の報告

【評価項目】			
項目	評価内容	スコア	評価
① CO2削減	CASBEE「LR3-1」のスコアによる評価	4.0	4
② みどり・ヒートアイランド対策			
生物環境の保全と創出	CASBEE「Q3-1」のスコアによる評価	3.0	3
敷地内温熱環境の向上	CASBEE「Q3-3. 2」のスコアによる評価	2.0	
温熱環境悪化の改善	CASBEE「LR3-2. 2」のスコアによる評価	3.0	
③ 建物外皮の熱負荷抑制	CASBEE「LR1-1」のスコアによる評価	5.0	5
④ 設備システムの高効率化	CASBEE「LR1-3」のスコアによる評価	5.0	5
⑤ 自然エネルギー利用	CASBEE「LR1-2」のスコアによる評価	3.0	—
エネルギー消費の実態把握に努める	エネルギー消費量の実績を3年間報告する。	報告する 報告しない	報告しない

その他

	技術の名称	考慮事項
先進的技術の導入		
特に配慮した事項		